

科目区分	研究科目		
授業科目名	臨床腫瘍学		
担当者名	柴田 浩行	配当年次	2, 3年次
単位数	15単位(選択)	実施場所	実験室
授業形態	実験実習		
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		

授業の概要・到達目標

授業の目的: 新たな創薬の方向性を探索する実験を行い, 臨床応用を目指したトランスレーショナル研究への展開を学ぶ。

授業の到達目標: 作成した論文を学術論文誌に公表後, 学位審査を経て, 学位取得を目標とする。

授業の概要: 以下の学習, 実習を通じて, がん分子標的治療に関する研究を行う。

1. 分子標的薬の作用メカニズムを通じて, がん細胞の生物学的特性を理解する。
2. シグナル伝達系分子のキナーゼ活性阻害, 転写因子群の転写活性化阻害, アポトーシス誘導活性, 転移・浸潤活性阻害, 血管新生阻害活性などについて, 新規抗腫瘍性化合物の評価を行う。
3. 担がんモデル動物を用いて, 上記化合物のin vivo での評価を行う。

上記の研究に使用する新規抗腫瘍性化合物は, 研究室で開発されたものであり, 非常に独創性の高い研究を展開することが可能である。

問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)

柴田 浩行, hiroyuki@med.akita-u.ac.jp

その他特記事項

履修に関する情報: 社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。

教科書・参考文献: デヴィータ「がんの分子生物学」

自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。